



未来を拓く、なは☆ひとづくり、
まちづくり、ゆめづくり

広 報 な は

那 覇

市 民 の 友

1

2025 Jan.
No.888



新春対談

Satoru Chinen

Toshiyuki Teruya

[那覇市長] 知念 覚 × ゴリ [ガレッジセール]



那覇市長 知念 覚

はいさい！ <すーよー いいそーぐわちでーびる(明けましておめでとうございます)>。

2025年、巳年の始まりです。市民のみなさまにおかれましては、希望に満ちた新春を健やかにお迎えのこととお喜び申し上げます。

私が那覇市長の職に就いてから2年余りとなり、折り返し地点を過ぎました。市民や事業者のみなさま、議員各位はもちろんのこと、校区まちづくり協議会や自治会、民生委員・児童委員などをはじめとした関係団体・機関の皆様の日頃よりのお力添えに、深く感謝申し上げます。引き続き、今年の干支であるヘビのようにしなやかに、知恵をもって市

政運営に取り組んでまいり所存です。

さて、今年の本市の主な事業として、Park-PFIを活用した、漫湖公園鏡原側と新都心公園でのカフェや遊具などの新設を予定しているほか、新・那覇市立病院のオープンなどがあります。また、経済団体や民間企業、関係自治体、関係団体で連携して那覇空港から普天間飛行場までの一体的な開発をはかるGW2050 PROJECTSも動き出しており、本市にとってはまさに巳年を象徴するような再生と成長の年となります。また、子育て支援や子どもの貧困対策、高齢者支援、災害対策など、市民のみなさんの生活に直結する施策にも、職員一丸となって引き続

き取り組んでまいります。

市民が笑顔で支え合い、安心して生活し、それぞれの夢を描くことのできる魅力的な那覇のまちを目指し、歩み続けていくことが私の使命であり、今年も全力で邁進していく所存です。

新しい年がみなさまにとって、健康で幸多き年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

くとろしん ゆたさるぐとうにげーさびら(今年もよろしく願っています)。



新春対談 映画づくりと、まちづくり

取材/秘書広報課 ☎862-9942

Satoru Chinen

[那覇市長] 知念 覚

Toshiyuki Teruya

ゴリ [ガレッジセール]

2025年に、結成30周年を迎える市出身のお笑いコンビ「ガレッジセール」のゴリさんが、公開間近の監督作品「かなさんどー」とともに新春対談に登場!市長との対談は、笑いあり、真剣な思いが有りの時間で、映画の話から、苦労話、また沖縄での夢までを語り合いました。

知念 映画「かなさんどー」、一足先に拝見しました。現在と過去の描写がミックスされていて、描写が上手でした。伊江島のユリは本物なんですね。

ゴリ 撮影がGW前の2週間と決まっていた、県内でその時期大量に咲いている場所があるのがテップウユリで、そこから伊江島を脚本の舞台にしました。仲本工業や室内シーンは、那覇市内でも撮影しています。最後のシーンで、テップウユリが満開かどうかは予想がつかない部分でしたが多分咲いているだろうと。予備日が作れず、その日に絶対撮らないといけなかったんですが、雨も降らず花も満開で自然にも助けてもらいました。

—映画は許しや寛容がテーマになっていますね。

ゴリ 誰しも親子関係や人間関係で、許せないことってあると思うんですが、人の死を僕も何度も体験し、お通夜や葬式に行くたび、最終的にみんなこうなるのかと思うのと、自分ではできるだけ憎しみとかそういうのをなくして死にたいなって。どれだけお金を持っていようか、車を何台所有していようか、あの世には持っていけないし、最終的に心の平穏を得て、あの世に行きたいなと。なので、最後にお父さんを見取る、そのときにどういった許しを娘が与えて、送ってあげるのかを中心に脚本を書きました。

知念 「かなさんどー」に出てくる夫婦の関係は、お互いのいいところを見えていますよね。人間いろんな面があるから、どの面を見るかという話で。いい面を見ていたら全てがうまく回るとして、僕は人のいいところしか見ないようにしています。ドジャースの優勝会見でも、選手間ですべてリスペクトという言葉を使って、尊敬する部分にクローズアップしているんです。それでチームの輪がうまく回っている。同じ24時間ですから、いやなところを見ていやな思いをするより、いいところを見て楽しく笑って過ごすほうが人生得じゃないかなと。

ゴリ いい面を見て、それをポジティブに捉えて、悪いところは忘れるって、大事だけどなかなかできないです。自分を幸せにできるのは自分なんですよね。自分を不幸にできるのも自分だし。前作「洗骨」では、沖縄のお年寄りからお褒めの言葉や手紙をたくさんもらって、人生の大先輩にほめてもらえて、すごく光栄で、次の作品を

楽しみにしているとってもらえていたので、ようやく次の作品を届けられるのが嬉しいです。



知念 ゴリさんは、どういった経緯で映画を撮るようになったんですか。

ゴリ 芸人が映画を作る企画で、日大の芸術学部に行っていた僕にも声がかかって。短編作品で評価をいただいていた僕に、現任に至り、「かなさんどー」が14作目になります。1作目のときは、撮影が地獄でもう二度とやらないと思ったんですよ。最終的に決定権があるのは監督だから、みんながどうすればいいか聞いてくるけど、自分に知識が無いから、カメラ、照明、役者、音声、道具さんに指示が出せないんです。22時終了予定が翌朝5時に終わって。押した時間が1か月間に感じるくらい、逃げ出したかった。周囲もイライラを態度に出してくるなか、すみませんって言いながら、引き受けた以上最後まで作らないといけなくともう二度とやるもんかって。けど、編集して作品が完成した瞬間ドーパミンが放出されて。耳からも出ていたんじゃないかというくらい気持ち良かった。うわ〜かわいい〜この作品、みんなに見てほしい〜って。わが子ですよ。

今思えば、この方向であってるのかな?違うんじゃないかな?って人に何かを伝える自信がなかった。指示もできるようになって、自信もついて撮影が楽しめるようになった今は、ゼロから世界をつくりだす脚本作りが一番苦しいです。僕の場合、映画の現場で100人いない人数を動かすんですけど、かたや市長は、半端ない人数が関わっている中で物事を動かしていく。その苦労を考えると、機関銃で撃たれたぐらい胃に穴が開いてませんか?市長ってどういう精神力でいらっしゃるんですか。

知念 それでいうと信念ですね。自分の人生、先がほしい何年で読めますよね。この年齢で市長になってよかったのかなと思うのは、いま61ですから生きてこれぐらいだろうと。ここから先は次の世代に何を残すか

を考えるんです。50なるまでは自分中心で来るんだけど、それを越すと次に何を残そうかとなるんですね。それを自分の信念として、これを継いでくれる人を残していく、と。最後、これで良かったなと思えるような、確固たる信念があれば胃に穴はかろうじて開かないかなと思います。その時に重要なのが基本的に自分は捨てる、自分を守らないということです。この人は自分のために、自分が得るからこんなこと言っているんだって、そう思われたら誰も動いてくれない。自分は捨て身で、世の中がこうなるなら自分はどうなってもいいよって。そういう気持ちにならないと人は協力してくれません。



ゴリ 後世のために絶対いいものを残すという自信と信念があるから、心を強く保てるんですね。撮影現場では反対意見もでるので、自分が間違っているのかなと思うときもあるんですけど、冷静に考えて自分が合っているとと思ったら意見を通すし、スタッフが言っていることが正しいと思えば柔軟に取り入れています。作品が良くなることが第一なので、自分のほうが作品が見えている、合っていると思ったら、1対100でも戦います。けど、そのあとの空気がきついです。わかりましたってみんな持ち場に戻るんですけど、雰囲気も重くて。みんな、違うのになと思いつつも作品を撮り続けたいといけなく。僕もぐぬぬって悔しいんですけど、よいスタートって言わなきゃいけない。そこは、作品のため、見た人に喜んでもらえるはずだという信念で作っています。

知念 それは行政も同じです。調整会議をしてみんな笑ってるけど、ドアを出たとたん「はあ?市長何言ってるわけ?」っていうのもあるだろうなと想像しながら僕はやっています。100点を求めたらだめだよ、250点の内容で持てきなさいと言っているんです。250点の発想をしないと100点はとれません。100点を求めたら60点にしかならない。将来250点までいくように、今できることを考える。次の世代はそこからスタートすればいいと。

ゴリ どの世界も同じですね。50を超えたら何を残すかという話がありましたが、僕は40歳の時、当時は人生



知念 覚 ちねん さとる

市長

1963年9月生まれ。首里中・首里高校・沖縄大学卒業。1985年那覇市役所へ入庁。30年の行政職を経て、7年半副市長を務める。2022年11月、第34代那覇市長に就任。市政のキャッチフレーズは「未来を拓く、なは☆ひとつづくり、まちづくり、ゆめづくり」。

ゴリこと
照屋 年之 てるや としゆき 監督

1972年5月生まれ。松城中・首里高校卒業。お笑いコンビ「ガレッジセール」として活躍するほか、映画監督としても活躍。前作「洗骨」は国内外で評価され、14作品目となる「かなさんどー」を今春公開。昔、平和通りにあったベビー用品店「林屋」はお母さんのお店。



80年といわれていて、人生の折り返し地点に来たぞと思ったんです。振り返ると、沖縄出身だから芸能界に残れた部分も大きかった。沖縄出身だからこそ面白がられ、沖縄のロケが増え、芸人としての特徴ができて。それで、沖縄になにかを残したいと、意識的に沖縄を舞台にした作品を作り続け、沖縄新喜劇を立ち上げました(いまは休止中)。作品であったり、僕がいなくなってもまわっていくエンタメのサイクルであったり、なにを残せるかって。

マネージャーって数百人の生活が、経済が成り立っているんです。僕は、これを沖縄に作りた。できれば国際通りでやりたいんです。僕は国際通りが青春だから、国際通りをもっと盛り上げて沖縄の良さが伝わるような場所にしたいんです。

安里のホテル前広場での夜市がありましたよね、いっぱいテントがあって盛況で。てんぷす館こそ、国際通りのど真ん中だし、目の前の広場で夜市やったらもっといいんじゃないかって思います。劇場があって、飲んで食べて、コメディミュージカルが見れて、いつもテンプスの周りは賑わっている状況っていいなあって。僕に資金があったらてんぷす買い取るのに、いったい誰が持ち主なんだろうって調べたら那覇市でした!



知念 ゴリさんが言うエンタメの部分、文化芸術の部分で勝負するというのは、沖縄の地理的な条件やいろいろを勘案すると実はそれが早道なんですね。我々も経済の部分を見ていて、沖縄が何で勝負できるのかデータと突き合わせながら考えると、優位性があるのはエンタメです。産業規模自体はまだ大きくないけど、付加価値が大きい。エンタメは産業化できるんです。

ゴリ 僕、夢があるんです。ラスベガスにあるような、すり鉢状になった劇場で、マジックショーなどさまざまなショーを上演して、お酒や食事をしながら楽しめる客席があって、注文を通しながらウェ이터さんが動いている、そんな劇場を作りたいんです。そこでは琉球王朝の成り立ちや泡盛の歴史といった、沖縄の文化を学べるコメディミュージカルを上演する。僕が観光客だったら開放的な気分を味わいにきてるので、飲みながら食べながら楽しみたい。いまは夜は民謡居酒屋に行くしかないですが、もっと酒飲んで食べながらケラケラ笑いながら沖縄の文化に触れて、ちゃんと民謡も聴けて、笑えてっていうエンターテインメントの劇場ができれば、ちゃんと経済が成り立つと思うんです。よしもと新喜劇って、なんばグランド花月それだけで衣装、舞台監督、演者、



知念 劇場をホテルとミックスするというのもありかもしれませんが、横浜市でKアリーナの事例がありますが、劇場運営で儲からなくても、ホテル運営でペイすれば事業者は乗ってくると思います。

公園だとパークPFという手法を使って、事業者と連携し公園の魅力を向上させる取り組みがあります。今度、漫湖公園にスタバができるんです。公園内にカフェを作り、その収益を活用して、遊具やバスケットボールプレイグラウンドを整備され、人もいっぱい来る。賑わいが生まれる、そういう場所にしたいという意図です。エンタメもそうですが、世界から振り向いてもらえるような産業を興すために、これからはGXや脱炭素といった環境に配慮した視点がないと、20年後の世界は誰も見向きもしない世の中になるのではないかと踏んでいます。

ゴリ 希望ヶ丘公園を会場に、音楽フェスのお笑い版を開催するのもいいかもしれませんね。ステージを設けて、こっちはベテランが出る、こっちは若手がでる、屋台もいっぱいあって、近所と調整できたらライブなんかも。僕はやっぱり国際通りが好きなんです。

知念 あと、工芸や演芸のオークションというアイデアもあります。沖縄にはそれだけの価値がある文化・芸能があり、落札者がそれをもとに「一流の体験」を作り提供する。そういうものを望む人たちも呼び込めるような、戦略的なまちづくりをしていきたいと思っています。そこでは芸能が柱になります。そこできちんと経済が回って、そのために東京から、世界から人が来るようなものを作り上げないといけないですね。

ーガレッジセールについて

知念 結成30年を迎えるゴリさんと川田さんがいいのは、安心感があるところです。見ていて本当に安定していて、安心です。言葉の選び方がうまいですね。ハラハラしながら見ているのはけっこう疲れます。おおげさなものがびこっている中で、安定感、安心感というものがあから長く活躍されているんじゃないかと解釈しています。それは本当に財産だと思います。

ゴリ 若い時は僕も売れるために必死でしたが、大人になってくるといんなことが見えてきますし、周りに支えられているというのがわかってきます。痛い思いもしましたし。若い頃は自分が頑張っているんだって、自分だけで走っているつもりだったんですけど、沢山の人が背中を押してくれているんだということに気づくとね。

知念 なにより、このたびは「かなさんどー」で主役に抜擢していただいてありがとうございます。(主人公のお父さんの名前が知念さん)

ゴリ この奇跡的な偶然を記念し、次回作「しかまさんどー」を那覇市で作しましょう。

※GX:産業・社会構造をクリーンエネルギー中心に転換していく取組み



かなさんどー

出演 松田るか、堀内敬子、浅野忠信、ほか
 監督・脚本 照屋年之
 主題歌「かなさんどー」作詞・作曲 前川守賢

照屋監督の最新作

「かなさんどー」が
 1月より県内先行上映!

「かなさんどー」それは、うちの「ぐちで」愛おしい」という言葉。家族の愛と許しの物語が、1月31日(金)よりシネマQほかで上映開始。県内は他に先駆けての先行上映です。

キーワード： 認知症 許し 秘密 日記 伊江島 仲本工業



<表紙>撮影:希望ヶ丘公園 紅型干支お守り:「もちもち」宮城守男